学校と地域を結ぶお元気情報 NO.12
大仙市立神宮寺小学校
学校支援地域コーディネーター 2011年2月16日発行

おいだらぼっち

題字 1年 佐藤結愛　絵 2年 さとうけん太

おいだらぼっちは神宮寺嶽を背負ってきた心やさしい伝説の巨人

～メディアと生活　その２～

≪ゲームと脳≫

かつて某公共テレビ番組で「脳のはたらき」についての番組が放映されました。

ある将棋に優れた少女が被験者になってコンピュータの将棋ソフトと対戦させて、その時の脳波の出方を記録しました。優れたソフトですから、脳は活発に働き出る波形は大きい変化を見せるだろう、という予想に反して、ゲームとの対戦中の波形には大きな動きがみられなかった、という結果でした。その少女と人間が対戦相手になり戦わせたところ、脳波は激しい波形を記録していました。

これは何を物語っているのでしょうか。　眼目は対戦相手です。コンピュータは所詮機械です。感情は無く、少女の駒の置かれた位置によって過去の対局記録の最適な計算で対応します。ただそれだけなのです。

しかし、人間は違います。対戦相手には感情があります。表情があります。呼吸があり、時によっては言葉があります。一駒置く事で相手は生きた反応をします。

つまり、人間対人間の勝負は現実の生きた状況です。「そうきたか、」つぶやくだけでも相手は感情を揺さぶられます。「碁敵は憎さも憎しなつかしや」という川柳のの気持ちなのです。

人間対人間は、勝負であり、人間対ソフトは、人間対仮想相手です。つまり架空です。喜怒哀楽の濃度の差はいうまでもありません。

≪メディアの本質≫

テレビ・携帯電話・パソコン・電子辞書など色々なメディアがあり生活はとても便利になりました。私達はその情報のシャワーの中で快適に生活しています。快適とは一体何でしょうか。

それは自分の体や頭を使わないで目的を果たす事です。「発明は人間が怠けたいという欲望から生まれる」という言葉を聞いたことがありますが正に的を射ていると思います。

つまり、メディアは人間が本来持っている能力を使わせない、という本質を持っているというべきでしょう。

便利の拡大は、ヒトとして何万年もの間に自らが進化させてきた能力である、思考力・技術力・社会適応力、それに加えて生物としての活力などなどを、退化または劣化させてきているのです。便利と能力の劣化の線グラフは右肩上がりと右肩下がりの関係にあることは明らかなのです。

≪遅い・不便の効用≫

過日、「となりのトトロ」の監督、宮崎駿さんが、発想の原点だったという森で木々を植えたり、手入れをしているところがテレビで紹介されていました。宮崎さんは「トトロを100回見るよりは自然に足を運んでほしい」と言っています。これは現地や現物に触れることの大切さを訴えている言葉です。藁工品の情報はたくさん知っていても縄を綯う事は出来ないのが現実です。そのようなことがいかに多いか考えてみませんか。テレビの自然番組を観てあたかもそこへ行って来た様な錯覚に陥ってしまっては退歩です。子どもの脳はすでにそうなっているかも知れません。架空と現実の分離が無くなっては大変です。自然体験の機会を多くするだけでも、そのような人間の劣化を防ぐいい方法といわれています。それによってあなたのお子さんの生物としての人間力が強くなるに違いありません。やってみませんか。これが学校支援なのです。

学校支援活動内容

1月	6年スキー授業補助（17日）		冬の寺子屋（冬休み学習支援活動5日～7日）
	5年スキー授業補助（19日）		2年生活科ゲストティチャー（25日）
	4年スキー授業補助（21日）	2月	5年理科ゲストティチャー（3日）
	3年スキー授業補助（24日）		全校スキー授業補助（4日）
	2年スキー授業補助（26日）		地域教育協議会（17日）
	1年スキー授業補助（27日）	3月	卒業式補助（14日）
	1・2年生活科ゲストティチャー（25日）		

※子どもを抱きしめていますか。今日の話を聞きましたか。